

全国保育実践交流連絡会ニュース

2021年3月発行 北海道・東北地区

戦後最大の自然災害となった東日本大震災から3月11日で10年を迎えた。突然襲った巨大津波。かけがえのない家族を失った悲しみは今も変わらない。それでも大切な人の思い出をそれぞれに新たな一歩を踏み出そうとして懸命に生きている。

東京電力福島第1原発事故で福島の人たちは故郷を離れ今だに帰ることが出来ず避難生活を余儀なくされている。放射能汚染の除去がされ避難解除されたが帰還は進まず、帰還困難区域は今だ除染がされず見通しのない現状です。“復興は道半ば” まだまだ時間がかかりそうである。コロナ禍の中で感染症に気をつけながら県を越えない形で交流に工夫を重ねて来ましたので、一部報告致します。

～年長活動報告 くるみの木保育園～

コロナ禍の影響により外部に出での活動はなくなりましたが、子ども達に出来ることは何でもしてあげようと園全体で話し合い、年長期後半は様々な活動に取り組んできました。その中の一部を報告します。

・コマ台作り

全員で1つのお話を決め、3人1グループでそれぞれの場面に絵を描き、4枚を合わせて1台のコマ台を作りました。

「森の中の3人の小人」



・凧作り (カイト)

コマ台とは別のグループになって4枚の凧を作りました。それぞれのグループで話し合い、好きな絵を描いて空高く飛ばして遊びました。



この他にも〈鬼のお面作り〉や〈荒馬作り〉などにも取り組んできました。コマ台や凧作りでは、子ども同士

の話し合いがとても多いことに驚きました。「ここまでは〇〇が描くからこの先描いて」「いいよ。じゃ、木はここに描くからね」「この色は何色がいいかな?」「明るい色は?赤とか黄色とかはどう?」などお互いのイメージを共有し合って進める姿がたくさんありました。大きい集団の中では、発言が少ない子も小さい集団の中ではしっかりと対等に意見を出し合い、相手の話を聞いたり受け入れたりする姿もありました。普段個人で行っている水彩とは違い「みんなで作るもの」という意識を持って取り組んでいく様子がよく見られました。ほとんどの子が6才を迎えたこの時期だからこそその素敵さがあり、そんな子ども達の姿を通して自分も学ばせてもらった活動でした。

～年長スキー体験（さくらっこ保育園、もとみや幼児の家保育園）～

2021. 2/22 リステル猪苗代スキー場

例年1泊2日で行っている年長児のスキー体験ですが今年度は1日で実施しました。コロナ禍での実施に至るまでには、何度も園内で検討を重ね、スキー場にも足を運び担当者からスキー場の利用者の動きや、ホテルの稼働状況などを伺ったり、日程も何度か変更し、安全に実施できるように万全を尽くしてようやく当日を迎えることができました。2園合わせて18名（さくらっこ保育園12名、もとみや幼児の家保育園6名）の年長児に、16名の父母の参加協力がありました。父母にはあらかじめ以下のことをお願いしました。

◆自分の子どもとは別のグループ編成となります

⇒スキーの基本が身につくまでは、何度も気持ちがくじけそうになります。仲間と一緒にだと乗り越えられる場面も、お父さん、お母さんの手出し、口出しにより気持ちが崩れ、乗り越えられないことがあります。保育園のスキー体験の意義は、どこまでも“仲間と一緒に”というところにあります。どうか他の子どもさんも我が子の様に見守って頂きたいと思います。

スキー場に他のスキー客がほとんどいなかったことでゲレンデを貸切状態で使用できたこと、父母の参加者が多くリフトに何度も乗ることができたことなどの好条件が重なり、午後には、スキーを初めて経験した子どもみんなと一緒に斜面をターンしながら滑り下りてくることできるようになりました。

スキーを教えて下さる方の話を真剣に聞く子どもたちの姿は、本当に素敵でした。様々な行事の中止や変更、縮小の中、スキー体験を実施できたことの喜びは、子どもたちの”今“に向き合う集中力になり、その思いを支える親集団の力を強く感じた1日となりました。

コロナ禍の一年。子どもはどんな状況であっても”前を向いている”という事を感じました。特に年長は例年のような年長行事を実施できないことが多く、悔しさや残念そうにしていることもありましたが、その中でも、ちゃんと今の状況の中で精いっぱい生きて楽しみを見つけて順応しています。そんな子どもたちの姿に力もらい「できない」ではなく「何ならできるのか」を常に考えることができました。出来ない事もありましたが新たに生まれた良さもありました。今後、もっと様々な問題（環境問題など）に直面するであろう子どもたちの未来。その未来を進んでいく子どもたちが前向きに自分の意志で道を歩いていくことを心から願っています。

文責 さくらっこ保育園 齋藤



保育実践交流連絡会ニュース

2021年3月発行 北海道地区

風の子保育園（札幌）

どんど焼き

1月15日にどんど焼きを行いました。お正月飾りを火に入れて焼き、その煙を手で招き、体に当てるようにしたり、この火で、焼いたお餅を食べ、無病息災を願います。子どもたちは、焼きたてのお餅を詰まらないように、小さくして食べました。外で、みんなで食べたお餅、美味しかったです。



道具袋

遅くなりましたが、年長さんの道具袋縫いをしました。染粉で思い思いの色に染め、縫いました。



つくしの子保育園（函館）

函館市は昨年の11月からコロナの感染拡大が深刻化してきました。園行事は例年12月のもちつき会、クリスマス会、1月の獅子舞などは保護者や地域の方にも参加して頂き、大規模に取り組んできましたが、今年度は縮小し子どもと職員だけで行いました。毎年楽しみしていた保護者に対しては、行事の様子を写真入りのお便りを出し、楽しさが伝わる努力をしてきました。

毎年5園で交流していた年長児のリズム運動も中止になりましたが、3泊4日の冬合宿は単独で行うことができました。冬山登山に乗馬にそり遊びにと日が暮れるまで毎日遊びこける生活は子ども達を元気にしてくれました。まだまだ制限つきではありますが、今まで行っていた活動や行事はできる範囲で続けていきたいと思っています。



青い鳥保育園（函館）

函館は1月もコロナ感染者が多く、2月の合同合宿も中止となってしまいましたが、年長児も後半期となり「他園からの刺激がほしい」という意見があり、3月9日に参加できる園だけでも集まって最後の合同リズムをしようという計画を立てています。

青い鳥保育園では、1月末に冬合宿を行い、宿泊場所が牧場の敷地内だったので、乗馬等も経験しました。

かもめ保育園（小樽）

小樽市の恒例行事「雪あかりの路」も中止となりましたが、1月の末に子どもたちとの話し合いで、今年は「かもめ祭り」をやっていない…。何かできないか…。「雪まつりにしよう！」と雪まつりに向けて動き出しました。

3～5歳児が1月の末から2月いっぱいまで山小屋に生活拠点を移します。雪まつりの会場は山小屋になりました。「ホップステップジャンプくん」のムラクの鉄塔に見立てた雪山からつなげて小山を作りました。小山の上には70個以上スノーキャンドルやアイスキャンドルを飾りました。夕方、ロウソクに火をつけると（この日北海道小樽市では暴風雪警報がでて

いて）すぐ火が消えてしまい、今日は前夜祭ということで明日開催することに。

次の日の夕方、火が灯ると雪まつりの始まりです。お祭りといえば「ソーラン節」が始まる子どもたち。3・4歳児も一緒に「子ども雪中ソーラン節」が始まりました。それから年長の踊り「十二月の歌」を披露。お迎えに来ていた保護者も一緒になって踊り、楽しい雪まつりとなりました。



菊水上町保育園（札幌）

札幌市は集中対策期間が延長となり、感染者数も中々減少しない状況でしたので、園内行事（観劇等）、園外保育、年長合宿等の活動の中止がまだ続いています。

3月で集中対策期間が解除され、感染防止の状況を見て、年長児の合宿、園外保育、お楽しみお別れ会を行いたいと思っています。